平成２６年度 第３回安曇野市新市立博物館構想策定委員会　会議概要

1	会議名　平成２６年度 第３回安曇野市新市立博物館構想策定委員会
2	日　時　平成２７年1月１５日（木）　午後1時３０分から午後3時まで
3	会　場　安曇野市明科複合施設　会議室３
4	出席者　笹本委員長、石田副委員長、福島委員、小林委員、平田委員、浅見委員、滝沢委員、浅川委員、小椋委員、酒井委員、西垣委員
5	市側出席者　北條教育部長、那須野文化課長、熊井博物館係長、小倉博物館係員、逸見博物館係主査、横山（乃村工藝社）、中瀬（乃村工藝社）
6	公開・非公開の別　公開
7	傍聴人　１人　記者　０人
8	会議概要作成年月日　平成２７年1月２３日

会　議　事　項　等

1　会議の概要

１．開会　（北條部長）

２．笹本委員長あいさつ

３．協議事項

（1）博物館が目指す方向性と扱う要素について

（2）その他

４．その他

５．閉会

2　会議概要

１．開会

北條部長・・ただ今から第３回安曇野市新市立博物館構想策定委員会を開催する。本日の会議は、市内の博物館が目指す方向性と扱う要素について、ご検討をいただく。
この委員会の設置要綱第６条第２項の規定により、半数以上の出席で委員会は成立であり、６人以上の方が出席なので、委員会としては成立をしている。
それでは、笹本委員長からごあいさつをお願いいたします。

２．委員長あいさつ

委員長・・昨日、私は丸一日、安曇野を歩き、普段気が付かないことに、いっぱい気が付いた。これから私たちが博物館をどうしていくかというのは、ある意味白紙で、この雪のように白いところから出発して次の時代をつくっていく努力をしたいと思う。皆さまのご協力をお願いしたい。
第２回委員会は、私は欠席したが、石田先生のご案内を中心にして、博物館を見ていただいた。基本的には、博物館は、見て、体感しない限り、われわれは評価できない。その意味で、皆さんのお手元に、本日、豊科郷土博物館で次にやる企画の資料を配付した。あの小さな博物館が、市民の皆さんに来ていただくために、日常的にどのような努力をしているのかを見ていただきたいと思っている。この委員会の人たちが見歩かなかったらば、博物館の未来はないので、できるだけ足を運んでほしい。今日は雪なので、定時の３時に終わりたいと思っている。皆さんのご協力をお願いしたい。

北條部長・・ありがとうございました。それでは、早速、議事に入らせていただく。要綱第６条に従い、委員長が議長を務める。笹本委員長から、議事の進行をよろしくお願いいたします。

３．　協議事項

（1）博物館が目指す方向性と扱う要素について

委員長・・まず、資料を確認させていただく。皆さまのお手元に事前に郵送したのが、資料１。１ページ目「構想の背景／検討の方向性」については、１回目の本委員会で話が出たように、私どもが一体何をしなければいけないかという大きな見取り図である。言うならば、新市立博物館構想を３つのケースで検討しなければいけない。ケース１が、「新市立博物館を新規建設する」。ケース２が「既存施設を改築する」。ケース３が「施設整備をせずに既存施設を活用する」。そういう中で、本委員会はどうしていったらいいかという原案をつくりたい。まずこれを確認するために、資料１の１ページ目がある。

重要なのは、そのために、資料１の２ページ目と３ページ目「安曇野市新市立博物館・美術館の主な要素」に、博物館では一体何があるか、何をしたらいいかという大まかな枠組みを示した。これに関して、私は今、ここでは大きな論議をすべきだとは思わない。というのは、それぞれの分野の人たちが、あれも足りない、これも足りないと数え始めると、私たちが本来やらなければいけないケース１から３のうち、どのようにしていきましょう、という論議にならないので、今、本市が美術館や博物館をつくっていくときにどんなテーマがあるか、博物館の学芸員の皆さま、それから市の職員の皆さまが、こんなものがあるだろうと思ってまとめていただいたものが、２ページ目の分である。それと同じ内容のものを、もう少し違うかたちで展開したものが３ページのものである。

まず安曇野市は何だろうということを一応ご確認いただいて、今後博物館の中で何が大事であるかということを論議するときの下地ということでご理解をいただきたい。繰り返すが、あれも足りない、これも足りないと数えるのではないということである。

今日からの議事は、今言ったように、ケース１、２、３のうち、どれを取っていくかということを、ここで決めなければいけない。あるいは、本来で言うと、市の体制に対して、私たちの意見としてはこういうものがあります、ということを持っていかなければいけない。

そのために今日論議しなければいけないが、ケース１、２、３のうちどれがいいですかということをぽんと言われても、私たちも困ってしまう。前回博物館を見ていただいた皆さんの講評等を見ると、大変失礼な言い方をすると、あまり足を運んでいない人もいるようだし、博物館はどうしても必要だという人から、どうこうする必要もないのではないかという、いろいろな意見があるはずだと思う。

そういう中で、見たばかりの新鮮な感想を前提にして、現状の場合、すなわちケース３「施設整備をせず既存施設を活用する場合にはどうであるか」という案を、まずは事務局のほうからご説明をいただく。

そのうえで、実はこれが大事なのだが、一番大事なのは資料の２「安曇野市新市立博物館構想・検討シート【ケース３】素案」の３ページ目の部分だと思っている。ケース３では扱えない要素、扱いがその一部に限られるものを挙げている。全てのケースで、長所と短所を持っているが、ケース３の場合で言うと、増築しないので、建物の申請はしなくてもいいという部分はある。

でも、そのことによって、マイナス面をきちんと認識しておかなければ、ケース１の場合と、ケース２の場合と、ケース３の場合の比較ができない。今日は、ケース３を前提にしながら事務局の説明を伺って、皆さまからそれぞれご意見をいただいたうえで、今後ケース２、ケース１それぞれの話を聞いたうえで、私たち一人一人がどういう態度を取っていくかを決めたいと思う。

そういう流れで、事務局からご説明をいただきたい。

那須野課長・今、委員長からお話があったように、いよいよきょうから議論のスタートである。私どもも、この複雑な博物館が今、関連施設も入れれば９館あり、さまざまな業務を担い、重複もあれば足りない部分もある。委員の皆さんに、いかに分かりやすく整理をしつつ議論を進めていただくかに頭を悩ませた。

一つたどり着いた手段が、要素を拾い集めるという方式である。本来なら、構想なので、一番に全体を貫くテーマを掲げておいてから、それに沿って系統的にいろいろ法則をつくっていくのが一般的だと思われる。ただ、安曇野市の博物館、美術館は、旧町村時代のものをそのまま引き継

いでいるので、一つ一つのことをいろいろ頭に入れながら全体を考えていくのが難しい側面があり、この要素を集める方式を考えついた。

要素は、安曇野市の博物館、美術館が持つ「もの（資料）」、「人（学芸員）」、この二つの視点から施設の現状と将来を考えてみる手法の一つと捉えている。ご承知のとおり、博物館等はいろいろなジャンルの企画や展示を行うことができるので、要素に限定して物事を捉えるには課題がある。何でもできるわけなので、特定のものに固定することにはいろいろ抵抗があるということである。

しかし、「もの」と「人」は博物館を支える根幹であり、まずここを考えることにより各施設の持つ特徴とか、課題を浮き彫りにすることができるのではないかと考えおよんだ。そこで、学芸員から安曇野市の博物館等の要素をたくさん挙げてもらった。現在、取り扱っているものから、取り扱うべきものも取り上げた。膨大な要素を整理したが、先ほど委員長の話にあったように、それを一つ一つ扱うと全体が見えなくなるので、大体整理してお示ししたのがお手元の図になる。

これを概観すると、安曇野市の博物館等が背負うものが見えてくると思われる。これをそれぞれの博物館等に割り振ることにより、扱っていないものや、かかわりの薄いもの、重複しているものなどがはっきりし、新市立博物館構想の中での課題解決につながると考えた。

例えば郷土博物館では、原始古代から近現代にかかわる活動、いわば通史を扱っている。これは旧町村ごとの歴史を安曇野市全体の観点で見直し、編み直す作業が必要になるが、その結果は、博物館の常設展に反映されるべきものと思われる。

また、考古だけ捉えてみても膨大な土器・石器がある。これも、常設的に原始・古代の歴史として紹介することはできない。ものがあっても施設がついていっていないわけである。

「人」という点で考えると、現在、郷土博物館には、考古、近世史、民俗の専門がいる。従って、郷土博物館では、歴史と民俗は一応担っていることになる。しかし、安曇野市の大きな特徴である自然については、対応できる専門者はいない。従って、この自然をどこで担っていくのか。また、現在いないのかということを検討することになる。

那須野課長より、資料１「安曇野市新市立博物館・美術館の主な要素」について説明。

那須野課長・これらを念頭に、ケース１、２、３とあるうちの、ケース３の現状維持を前提として、今回はケース３だけの議論にとどめたい。一応、ケース３が入り口なので、この入り口でいろいろと課題が出ると、次のケース１、ケース３の議論につながらないので、ここは慎重に、今回これだけに時間を取って、いろいろご意見をいただきたい。

こういう要素的な扱いでいくかどうかという点もあるかと思うが、せっかくの機会なのでいろいろな意見を聞かせていただきたい。

一応、考え方としては、ここにたくさんの要素がある。ケース３では、現状の施設にこれらの要素を割り振っていく。将来も今の施設を使っていくので、扱っていない要素についても、できるだけ割り振っている。そうすると、当然、扱えないものも出てくる。それは施設や人の問題で、本来あるべきだけれども、どうしても扱うことができない。もったいないけれども、今の施設のままだとこういう課題が残ってしまう。この課題は、取りあえずそのまま残していただいていいかと思われる。

そして、この後、ケース１、つまり新しい新市立博物館をつくった場合を議論していただきたいと思う。そうすると、ケース３で扱えなかった要素の多くは新市立博物館の中に入ってくるので、課題解決につながる。逆に新市立博物館で扱えなかった要素を、残された館の中で消化していく。そして、役割を終えた館については、ある程度統廃合を考えていくということが、ケース１では考えられると思う。

ケース１はお金がかかる。今の安曇野市の財政事情できちんとしたものができるとは、必ずしも

今この時点では言えない。ただ、できるだけ皆さんのご要望を聞きながら、夢のあるものを描いていただくというのは、ケース１でいいと思われる。
ケース２は、その中間案になる。現状のケース３、夢のあるケース１を踏まえて、お金をあまり使わないけれども、ここをこういうふうに工夫する。例えば、施設の一部の増改築とか、ちょっとした収蔵施設や、作業スペースを確保するというような折衷案を考えて、費用負担を減らしながら、現実的な中間的な案を練るのがケース２。このケース２になることによって、ケース３では残った課題がある程度は賄えてくるのではないかというような絵を描くのが、ケース３と考えた次第である。
この考え方が、「もの」と「人」だけを見ているという点である程度偏っている部分がある。この要素的な振り分けに当てはまらない部分が当然出てくる。例えば、今、安曇野市美術館では、髙橋節郎があったり、高田博厚があったり、宮芳平の収蔵物があるほかに、いろいろな企画展をやっている。それは、お金を出して展示物を掲示してやっているわけだが、そういういろいろな活動の中に夢を描くというのは、全くこの中には抜けている。
安曇野市の美術館、博物館が、将来どういう方向で活動をしていくのか。施設がどうあれ、筋が通ったかたちで、こういう方向を目指して活動をしていこうというものが、このケース３や、ケース１を議論する過程で、大体皆さんの中に想像できてくる部分があると思われる。そこで、どんなケースにおいても、安曇野市として貫かなければいけないものは、また議論して決めていただければいいのではないかと。それが明らかになれば、今回議論をしていただくケース３の直すべきところも出てくると思われる。そういうかたちで、策定を進めていったらどうかと思った次第である。

那須野課長より、資料２「安曇野市新市立博物館構想・検討シート【ケース３】素案」について説明。

委員長・・論議する時間が 50 分しかないが、一言だけ言わせてほしい。博物館をつくるのは、将来の市のために何ができるかであって、古いものを並べるための作業ではない。私たち全体が市の将来にどのように寄与できる博物館をつくっていくべきか、ということが大前提である。それを抜きにして、細かい点だけは論議したくないので、この点、ご協力願いたい。
もう一つ、今の説明の中でもお分かりいただけると思うが、ケース３で施設整備をせずに既存施設を活用するということは、活用方式を考えなければいけない。今まで何が足りなかったかというと、市全体のことを見ていくようなものがなかった。市全体のものを見ていくことができないとしたら、既存施設の中ではどういう活用をしたら、どのようなことができるだろうかという視点がきちんと入っているはずだと私どもは思っている。
そういう意味で言うと、まずはこのような方針で少し論議をさせてもらっていいかどうか。これを決めていただいて、今日の皆さんの、今まで見た感想、それから「これが足りないよ」でもいいし、どうしたらいいかというご意見をいただく。まず１回目としては、今、事務局の方から説明があったように、要素を見ながら論議のたたき台としていくということで、よろしいか。ここまで来て急に、新しい足場を言ってくれるのなら大変よろしいのだが。では、これでいかせていただきたい。
その上で、前回、皆さんに見ていただいて、私どもの市が一体どういう状況であるかがよく分かっていただいている。今まで、事務局は、いろいろなものの舞台となる「自然」が足りないということを前提にしていたけれども、それだけの問題ではなさそうだと、私は思っている。
個人的なことを言うと、それぞれの建物は、このまま行った場合でも、しばらくたったら建て直しが必要になってくる。そのときを目指して、今のうちから着実に歩を進める方策もあるだろうと。極端だけれども、ケース１の場合であっても、新しい建物ができたらそれで終わりというのはあり得ない。常に進歩していくための方策も考えなければいけない。
もう一つ私が気になるのは、安曇野市の現状で、皆さんに、本当に私たちが満足するだけの内容

を込められる博物館をできる自信があるのかどうか。
そういうことも全部含めて少しご意見を伺いたい、１回目なので、皆さん、できるだけ意見を言って、お互いに、こういうものだということを認識した上でやっていきたいと思う。どうぞ、ハチの巣をつついてほしい。よろしくお願いします。

委員・・今、事務局から説明を受けたが、その中で既に「新博物館をつくる」という言葉が出てくるが、私はどうしても引っ掛かる。ケース３の場合は、あくまでも既存施設の統廃合までにとどめるのであれば、そこに「新博物館をつくる」というのが入っていいのかなという疑問を持ってしまう。ケース３の３ページのところである。統廃合をした三郷とこれからの博物館の短期５年以内のところに、展示は基幹博物館へということで、主要な資料は新市立博物館へ移行するという言葉が出てくる。

那須野課長・これは基幹博物館の打ち間違いである。あくまでも、この場合でいくと、豊科郷土博物館へとなるケースである。

委員・・そういう意味であるなら了解である。

委員長・・新市立博物館というのは、必ずしも建物だけの問題ではなく、私どもとしては、ケース３の場合でも、新市立博物館になってくるだろうと思っている。そういう意味としてご理解いただきたい。私も、説明を受けながら、新施設のところにわざわざ線を引いてこれは何か？と思った次第である。

委員・・ハードではなくて、イメージとして描く、ということだったら理解できる。

委員長・・ハードのほうも、いずれにしろ、将来的な部分はまた考えなければいけない。私たちの側でも、一時的にこれでいいと言っても、はっきり言って築 25 年、30 年という建物は、このまま行くわけがないと思っている。このままあの建物を残しておくと、国の重要文化財（重文）になりそうだから残そうというような施策もあるが、本当にそこまで言えるかどうかは別である。
今のようなことも含めて、どうぞ、皆さん、ご意見をいただきたい。

委員・・ついでに、安曇野市の統計資料で入館者数を調べてみた。そうしたら、陶芸会館のデータが出てこなかったが、安曇野市はなぜそれを除いているのか、よく分からない。なぜか、陶芸会館だけ統計資料というものがない。インターネットに、分厚い資料があるのだが。

那須野課長・統計資料に載っていないという経緯を、今、お答えがすぐにできないが、一応平成 25 年度の利用者数は 1556 人になっている。実は、この中で美術品の入館者はごくわずかで、ほとんどが作陶で利用しており、極めて特異な利用形態になっている。従って、あそこに壺がぐるっと展示してあるが、それだけを見に来られる方はほとんどいないということである。

委員長・・今、説明があったように、陶芸会館には世話役で行っているが、皆さんが行って、わざわざお金を出して見たいものかどうか。あれは、本来の使用だったら相当大きな意味を持つかもしれないが、現状では作陶の人たちの利用が多い。でも、作陶だとすると、公民館活動とどう違ってくるのか、いろいろな要素があると思われる。そういうものを含めて、皆さん、ぜひ、ご意見をいただきたい。

委員・・先月からたくさん資料をいただいて、なかなかイメージができないのだが、例えば、私だったら、どういう施設がどのように欲しいのか少し考えてみた。
ご一緒に歩かせていただいて、収蔵庫的なものが非常に多く、いわゆる博物館的な施設に関しては、物置的な存在のものが圧倒的に多くて、やはりこのままで、皆さんにお見せできるという施設、魅力的だなと思われるところは、実は私は、ないと思った。
それで、将来どんなふうに考えていくのか、少し私なりの夢を考えてみた。美術館・博物館というものの使命を考えると、資料の収集、保存ということがまず必要である。それから、それを展示して、教育・学習に役立てていく。そういう使命が出てくると思われる。それから、もう一つ大切なことは、その施設の中で研究を深めていく役割を果たしていかなければならない。要するに展示して適当にやっていればいいというようなわけにはいかないように思われる。そのため、統合してもいいし、新しくできてもいいが、未来をつくっていくものの中には、この３点がきっ

ちりと位置付けられる、そういう見通しのある施設を、この役割をしっかりと担えるものを、私たちは構想していく必要があるのではないかと。すごくそのことが気になった。
美術館に関しては、高橋節郎館にしても、豊科近代美術館にしても、それなりに現状を知って、活躍をしているということで、博物館とはちょっと違ったイメージで私は考えているが、今、ご提案したいのは、博物館に関する構想である。いろいろ見せていただいた中で、民俗資料館のようなものは、人々が生活を始めた江戸時代ころから、人々の生活がどのように変化、進化、進化という言葉よりも変化、発展してきているかということが、たくさんの資料によって展示できるのではないかと思われる。生活が始まるというのは、縄文とか、弥生ではなく、江戸時代ぐらいからの発展、進化が考えられるかなと思った。
それから、考古館的な要素の土器類はたくさん保存、収集されているということを見て、これをうまく一堂に展開していくことができれば、考古館というような性質のすてきなものができるかなと、そんな思いを深くした。
それから、欠けている点ということで考えてみると、自然史博物館的な要素というのが、やはりとても少ないのではないかなと。私が勉強不足であったり、しっかり見せていただいていないので、そのように思ったのかもしれないが、自然史博物館的な要素がどうしても欲しいなと。この豊かな安曇野の展示がうまくできる施設を、私としては一番欲しいと思った。その中で、やはり「水」ということを考えた。水というのは、北アルプスから伏流水として豊富に流れだしてくるというところから考えると、地質学的な要素、そして、水によって、いかにこの豊かな安曇野が展開しているか。そして、それに伴う豊かな自然や生きものが展開できる、自然史博物館的なものができたらいいなと。やはり何でも並べておけばいいとか、そういうことでは今後の博物館は用をなさないように思われる。安曇野という個性をありったけ活かしたかたちのもの、いくつかの分類のものが、新築できるかどうかは分からないが、ある程度、それが納められる主要なものが出来上がると、すごくいいなと思われる。

委員長・・このぐらいにしてほしい。というのは、あと 35 分しかなく、皆さんの全体の意見を聞いていかなければいけないので、お一人だけというわけにはいかない。それで、この意見には、非常に重要な視点がある。収蔵・展示・研究・教育。これがなかったら、博物館は成り立たない。その中で今足りないのが、一体何であるかというと、今の話だと、展示部分、教育部分が足りないということだと、私は理解した。一方で、博物館が成り立つためには、最初にやらなければいけないのは収蔵である。ものがなくなったら研究も何もできない。だから、今は収蔵の部分をやっている。そのことはご理解いただきたい。
それから、もう１点、私の立場ではないかもしれないが、私たちが理想を語る部分と、同時に経済状況、人口状況、先ほどから話が出ている陶芸会館でもそうだが、経済的に、あるいは人があまり来ないところに、どれだけお金をかけるか。これは行政判断の問題で、市民のわれわれとしても、ここに税金を投入しましょうということを判断していかなければいけない。
そのため、夢の部分とそうでない部分を、ある程度、みんなで認識した上でいきたいと思う。基本的にはどうなったら、市が良くなるのか。ややもすると、私の経験で言うと、博物館の夢の部分をつくる人たちと、行政との間で対立関係が生じてしまうときがある。というのは、私たちはこうしてほしい、市のほうは、これはできない、それは避けたい。ということは、極言をすると、市がどうなっていけばいいかというのは、市側も考えるし、われわれも考える。そのときに手を携えていったら、新しい博物館はこうあるべきだということだと思われる。
今までのこの部分に関して言うと、現状のパターンでいった場合には、収蔵部分はしっかりやれるけれども、展示部分がとても足りない。これが１点。２点目としては、山とか、自然とかいう部分をどうするか。という課題が出てくる。
ただ、繰り返して言うが、全てに対していいようにはできない。それはみんなで、ある程度認識しておかないといけなくて、ケース１の、新しい博物館をつくる場合でも面積を確定してしまうので、薄く広くやりたいのか。何かに特化してやりたいのか。それも全部要素が違ってくる。こ

の中で、今ある施設を使った場合には、どうしたらいいのかということで、もう少し皆さん、ご意見をいただきたい。

委員・・限られたお金と予算の中で仕事をするということは、もう自明の前提なのだが、作業過程として、要素を分析されている。もちろんこれを全部満たしたような施設はできっこないのだが、一番大事なのは、短期的、中期的、長期的、それが5年、10年、15年でいいのかどうかというのは、なかなか難しいが、「資料の収蔵」と「調査、研究」というのは結び付いている。調査、研究が進めば、その分野の資料は必ず入ってくる。情報も入ってくるし、情報以外の実際のものも入ってくる。そういう関係が当然ある。基礎的な部分で大事なのは、あと5年間、何を調査、研究するのか。次の10年間で、何を調査、研究するのか。限られた人的資源というか、学芸員さんがいるわけなので、その顔を見ながら、現実にはテーマを設定したり、収集課題を出したりするということが、まず一番、身近な問題だと私は思う。

それは、どんな新しい博物館ができようと、既存の施設であろうと、一番、基礎にならなければならないことである。そこをまずきちんと押さえるということではないかなと。そうすれば、新しい施設ができようが、既存の施設を活用していくという課題があろうが、生き残っていけるだろうと。その部分がないと、たぶんばらばらになってしまって、いけないのではないかと思われる。それは、現状で構成している職員の考え方でいいと思う。その守備範囲でいいと思う。それで限られるのは当たり前のことだと、私は思う。

なので、そこで目いっぱいいろいろ考えてもらって、あと5年間はこれをやりましょう。あと10年間はこれをやりましょう。そして、残ったのは15年後先からは、これをやりましょうといって、できれば、したいもの全部やることは無理なので、強弱を付けて、ストーリーを付けて、もう既存の施設もあるので、それはもうぬぐいようがないと思うので、そこはきちんと活かした上で、さらにどういう課題があるかを見いだすということが、一番大事ではないかと思われる。それがないと、施設の間の統合とか、いろいろ議論をしても、たぶんうまくいかないのではないかというのが、私の考えである。

委員長・・今おっしゃったとおり、基本的には市全体の中で、どうやったらうまくいくかということを考えると思う。どうあるべきかということと、短期間を考えないといけない。

一方で、今の意見に反対なのは、私は学芸員をきちんと利用すべきだと思っている。長野県の一番弱いのは、きちんとした学芸員がいないことである。県で、人をつくっていく。つまり安曇野市をリードできるだけの学芸員を今後増やしていかなければならない。

私は、逆に言うと、ケース3でいく場合の最低条件としては、建物は結構ですけれども、その分「人」をくださいと。それをやらなければ、私たちは何もできない。将来計画でも、先ほどの資料の収集でも、展示でもそうだが、結局はどのぐらい優れた学芸員がいるかによって全く違ってくる。建物がなくても、いい学芸員さえいれば、違うことはいっぱいできる。だから、私は先ほどの意見と違うというのは、内容は全く同じなのだが、むしろ私たちは積極的に素晴らしい人を確保したい。ケース3のときは一番、建物の代わりに人は欲しい、というのが一つ手ではないかと思っていた。

委員・・専門的なことは分からないが、この間、（博物館・美術館を）見せてもらって感じたことだが、歴史的資料で似たようなものが、三郷と、堀金、穂高の会館の中にある。それを、やはりひとつの所に集めて整理していくことが大事ではないかと思った。それを保存型と、展示型で考えて、展示をするのなら、ではどこだろうと。既存のところでいったら、豊科博物館がよいかと思われる。いつでも出し入れができるようなことをしていく。そういうことも大事ではないか。

美術、工芸は、その場にあってこそ価値がある場合と、無理にそこになくてもいいと考えられたのが飯沼飛行士の場合で、あそこがいくら生家であっても、資料を見たときには、あれはどこか図書館の一画にあってもいいかなと。それから、郷土出身の功績のあった人物も、政治的なことをした人たちだったら貞享義民記念館の方へまとめておく。文学的なことだったら、臼井吉見さんのところは、あまりにも狭すぎる。今は、NPO か民間の人がやってくれているが、それもやは

り図書館の一画に文学のコーナーがあってもいいかなというふうに、私なりに感じた。

委員長・・すごく重要な指摘だった。やはり今まで、旧町村ごとにやっているので、都市全体のレベルの考えが当てはまらない。今のようなかたちで、既存の施設でいくときには、既に民具等に関しては全部データ化しているが、そういったサイトがどうしても必要になってくる。その上で、今までのように館ごとの独自性を持たせる。

館ごとの独自性を持たせるときに、もう一つご提案で大事なのは、図書館。今の言い方だと、博物館のことしか考えていない。それはばらばらになってしまって、まずい話だと思う。

例えば、美術品というけれども、美術品を生み出している「人」に関しては、ほとんど光が当てられていなくて、「作品」しかやっていない。私は今回のものは非常によくできているものだと思うが、次の段階を考えるとき、もう考古・民俗・歴史なんてもの自体も取っ払わないといけない時期まで来ている。いつまでも同じパターンでやっていたら、新しい市の器はできないだろうという気がする。その意味で、今おっしゃったことはすごく重要な視点があると思われる。もしやっていくのなら、今のようなことをきちんと処理したうえで、既存施設をつくっていくべきだと思われる。

委員・・まずは豊科近代美術館と豊科郷土博物館の名称の改名。安曇野市美術館、安曇野市博物館と変えていくことが、第一ではないかなと思った。

それから、美術館のほうは、市の公の施設としての美術館があるが、私立も安曇野市に幾つかある。それが安曇野市の魅力ではないかと思う。いろいろなところに、いろいろな美術館があって、そこに行けば見られるというのが、安曇野市の魅力、美術館の魅力ということにすれば、来た人に回って見ていただくというふうにできる。

そうなると美術館は、豊科近代美術館が中核で、行けばこういう美術館がありますよ、こういうことがありますよという発信。それから、私立、公立全ての、どこのどういう美術館で何をやっているのか。どういうものを持っているのかということまでも把握できるような力というか、そんなものを備えた美術館であってほしいと思う。そうすれば、いろいろなところに、いろいろな魅力の美術館がある。それを回っていただけるのではないかなと思った。

郷土博物館に関して言えば、はっきり言って、今の施設ではたぶん小さいし無理だろうな、でも頑張っているなという印象を受けた。今すぐどうこうということではないと思うが、まずは人、学芸員の力を付けていくことが大事なのではないかなと思われる。

自然、山岳、景観に関しての要素がすごくないとおっしゃっていたけれども、大町市には山岳博物館があるし、松本市にもあるし、美ヶ原など、それぞれのところにそれぞれ博物館的な小さなものは幾つもそろっている。だから、そういうものはそこにお任せをして、安曇野市は広大な自然をそのままお見せすればいい。見に来ていただければいい。

ただし、博物館には「こういうことを知りたいんですが」という問い合わせが来たときに、そのことに関しては、こちらへ行けば分かりますということを知っている人が必要なのではないか。それはやはり学芸員だと思う。なので、そんなふうにして、全て網羅しての博物館、美術館は無理だと思うので、その部分はあるところにお任せをする。ただし、そのことをよく知っている人なり、情報なりを持っているのが大事なのではないかなと思うので、こういうかたちでいかれるのはいいと思った。

委員長・・いつもながら、すごく厳しい、しかも楽しい意見をいただいた。先ほど、話があったとおり、私も周りを見ていると、それぞれの市が同じものを持ちたがるというのは間違いだと思う。全体として、どういうように生きていくかという中で、自然史博物館が本当に必要なのか。今、言われたように、自然そのものを見せるためには、どうしたらいいのか。それは考えていきたいと思う。同時に今の意見の中にも出てきているとおり、周囲のことを全部掌握し、ここが大事ですよということを知るというのは、やはり一流の能力を持った人でないとできない。その意味で、これからなんとか、私たち、学芸員、それもそれぞれあると思うが、私の理想だけで言うと、例えば、御代田町の堤さんという学芸員は、僕は日本的クラスだと思っているが、うちの市には、このよ

うな、本来なら大学の教員よりも上の人がいるが、その人が私たち市民のために、これだけやってくれているということが誇りになるような市になるべきだと思う。
そうすると、それだけの学芸員を用意するほうが本当は将来のためには役に立つかもしれない。それは、皆さんが言っていることと全部連動していくように思われた。

委員・・ちょっと視点を変えた意見を申し上げる。今日いただいた資料の最初のところに、博物館構想の背景というお話があった。その左側の下のほうに、現状の博物館、美術館の課題がある。展示とか、研究とか、資料収集が重要であるというお話が再三出されているが、私は最後の観光振興とか、産業振興とか、まちづくりとの連携促進のところを、ある程度新構想の中に強調して入れていきたいなとは感じている。
先ほど、委員長が、新しい市のためにどういう役割が果たせるかと言っていたが、やはり町の振興が大きな役割だろうと思う。博物館というのは、昔を振り返るということが、もちろん土台になって、それはわれわれが生きていくための土台だと思うのだが、逆にそういうものが何もないという市が仮にあったとしたら、たぶん寒々しい町だと思われる。だから、やはり立派な施設というか、立派な理想の下に博物館なりを、われわれがいつでも訪ねられるというのは一つの理想である。ただ、スタティックにあるだけではなく、その町の生活や経済活動にもプラスになると。これから市の理事の方々とか、新構想を提案して、いろいろやりとりがあると思うが、そういうときに「予算が」とか、「お金が」と言われる。まちづくりのために経済的メリットもあるというのは、一つの説得の足掛かりになると思われる。
実際、博物館のあり方というのは、私は期待をしたいと思っている。

委員長・・最初に私が申し上げたことと全く同じだと思っている。従来の博物館というと、やはり専門家のため、教育だけというところが多かったように私は思っている。安曇野市の将来構想で、例えば、今からヨーロッパの状況なんかを見ていくと、滞在型の農家観光とか、その場所へ行くということが増えてきている。そういう提案ができるかできないかは、市のことをどれだけ知っているか、による。学芸員が自分の研究のためではなくて、市のために働けるかという視点を持つことによって、状況は変わってくる。
先ほど、問題になっている水一つをとっても、「水が流れています」では、何の意味もなくて、それがどういう歴史と、どういう経緯なのか、ということが魅力になってくるはずだと思われる。
本来の博物館というのは、単にものを知るのではなく、私が目指すのは、未来をつくっていってもらえるだけの要素をつくっていきたいということで、実は今おっしゃったことは、すごく大事な視点で、できたらいつかの機会、今日はちょっと時間がないので、これは公的には無理なので、事務局の人たちの個人的な意見として、参考までに、市はどういう方向を目指しているかというのを伺い、連動できるだろうと思っている。
私は単純に観光にくみする気はないけれども、本当の観光は歴史とか風景を全部分かった人たちが新たな提案をしていかなかったら、この市ももう一定のとこで終わってしまうだろうという気がする。そういう意味で、おっしゃったとおり、観光振興、産業振興、まちづくりは大事な要素だと、みんなで意識をして、博物館のほうに進んでいきたいと思う。

委員・・子どもにかかわる立場から申し上げたい。博物館のプランの構想の中に、ぜひ盛り込んでもらいたいことがある。それは、「遊ぶ」・「学ぶ」・「集う」。これまでは、「知る」とか、「展示」「保管」「研究」。それから、体験・非体験型の博物館だったと思うが、それを発想転換してもらいたい。
ケース３の検討シートの中の目標テーマ、それから短期・中期・長期の中のプランの中にも、それらの視点がほとんど盛り込まれていない。それではこれまでの博物館と同じイメージになってしまうので、それを安曇野市の博物館の売りにしたい。その基礎は、既に豊科郷土博物館が始めているので、そこから学んでいきたい。これが１点目である。
２点目は、箱をつくるだけではなく、それを長期にわたって維持していかなければならないので、税金と入場料だけで、何十年間か先のこと、20 年先まで維持していくのかは、少し考えたいと思う。経済的に何か収入が得られるものができないかどうか。その視点も盛り込んで構想を練って

いくべきだと思われる。

委員長・・すごく大事な視点で、まさに委員さんが出てくれたことの意味があると思う。博物館をどうしていくかのときに、遊び、学び、集うという空間がきちんとできる方策を少し考えていきたい。ぜひ意見を積極的に出していただきたい。

一方で、２点目の、経済の部分は、これは個人的には微妙なところだと思う。図書館は儲けるためのものか。図書館は儲からなくても、開館しているものである。博物館も、遊び、学び、集う子どもたちがいっぱいいれば、その人たちが次の時代をつくってくれる。その部分で、今までの博物館、私は豊科郷土博物館には苦情をいっぱい言っている。展示の部分では、見学する目の高さは大人の視点でしかない。説明文に関しても、本当に子どもが分かるのかということを、（今、学芸員がそこにいるが、）言っているのである。

そういう視点からいくと、私たちが博物館を何のためにつくるのか。もう１回前に帰っていうと、おっしゃるとおり、経済的に成り立つ博物館をつくる。これも一つの方策だと思われる。一方で、それが成り立たない場合は、何をもって、市民に対する寄与とするか。それが最初に出ていた部分に直結してくると思う。これは今後にしっかり入れ込んで、話をしていきたい。

委員・・前回の視察に出られなくなってしまって、個人的に見学に行った。その中で思ったのは、皆さんがおっしゃったように５町村のときに立ち上げ、残したいという意思があって、資料を集めて保管して展示したということが多い。三郷の貞享義民記念館なんかは、学芸員さんもしっかりいらして、かなり説明していただいた。シアターを見た後に全体像をつかんだので、展示してある古文書も、あれだけ見たら分からないが、よく分かった。そのように順番が立てられていて、とても分かりやすいところだと思った。

今、あちこちで友の会とかをやっているが、立ち上げ当時はたくさん会員が集まるが、そのことに興味を持って集まった年代の方が、今、どんどん高齢化してしまって、どこの館でも友の会の人数が減ってきているという悩みを抱えていると聞いている。私も一応入っているところがある。ちょっと関係ないことになるが、安曇野市文化振興計画のアンケートで、安曇野市の自然とか文化を、市民の皆さんが大切に思っていて、その部分を出していってほしいという結果が出ている。先ほど、自然に関してはあちこちに博物館があると出ていたが、資料１の要素の図にあるように、やはり自然というものが中心になって、文化とか、人が生まれたり、歴史が生まれたり、水の争いがあったり、田んぼのこととか、いろいろなことが出てきていると思う。

私は前に観光ボランティアをやっていて、伏流水のお話を一つしても、結構感動してくださった。だから、こんな産業がある、イワナとか、わさび田のお話にもつながっていった。

一つの例だが、博物館と博物館の野外観察は燃料とエンジンのような関係であると聞いたことがある。それは、私は自然のほうで案内をしていたので思うのだが、石田先生が、「この安曇野市はどこも博物館だ」とおっしゃっていた。本当にそう思う。

石像群をとっても、自然のことでも、里山をとっても、それが全部博物館になっていると思われる。自然界に存在する、生きている資料というのは、動く画像であると例えると、博物館に集積、所蔵された資料は、一種の静止画像である。その静止画像の集積、収蔵、研究、もちろんそれが根底にある。それを収蔵する場所が、安曇野市にたくさんあるというのは、それもまたとても素晴らしいことだと思われる。その動く画像では捉えられないものを、静止画像で学びとって、それを基に野外で生きた資料を見るということである。それは自然界の、例えば、ちょっと自分がやっていたことなので恐縮だが、カナブンとコガネムシという虫がいて、どう違うかと。カナブンは前羽で、４枚出すときに、２枚を開かずに下羽を広げて、２枚で飛ぶ。コガネムシは４つの羽を広げて、カブトムシやカミキリムシみたいに飛ぶ。それを静止で展示しておくと、初めてそのものを見て、興味、見る視点というのができてくると思われる。だから、博物館も自然分野はあちこちにあるけれども、やはり歴史を見に行くにしても、今までの人物を見に行くにしても、そういう静止画像をまず置いているところ、この前も言ったが、安曇野市を紹介する窓口になるところ、それは必ず必要だと思う。それが将来的にケース１の構想になっていって、既存のとこ

ろを活かすにしても、それは大事だと思う。
最後になってしまうが、それよりも一番大事なのは、人物を育てるということである。
それから、いろいろなところで「小学生とか来ますか？」という質問をしたときに、「こことこの小学校は来ます」といわれたのが三郷の貞享義民記念館。さすが、三郷村のときに１億を使って、残そうという村民の意思でつくったということで、かなり力が入っていて、伝える意思、残していきたい意思が、その話の中から感じられたが、他の、ただ展示して、発展性がないというところは本当に残念だなと思った。
でも、それは、例えば、臼井吉見さんの作品『安曇野』を考えると、今、安曇野という地名は全国で有名である。「なんてすてきな所に住んでいるんですか」と言われ、「安曇野」という言葉だけが、今一人歩きをしている。それと掛け合わせていったら、もっと安曇野の文学も出ていっただろうというふうに思われる。こうして、いろいろつなぎ合わせることによって、もったいない、埋もれているものがいっぱい出てくるのに、と感じた。既存のものを活かしていくときに、宣伝の仕方というか、世に出していき方を、もっと検討していったら、残念な施設も活発になっていくと思われる。

委員長・・すごく重要な指摘をいっぱいいただいたように思うが、ちょっと時間の関係があるので。

副委員長・・私はかねがね思っているが、この安曇野全体が自然博物館であるという主張は変えていない。今、委員や関係者で考えていただく案はごもっともだと思う。まず、私たちのこのふるさとに保存すべき大事な資料がある。見られるものがたくさんある。それをどういうふうに保存し、整理し、今、お話になった、未来ある子どもたちに示していくか。そういう観点からすれば、新しい博物館をつくって、そこに学芸員をたくさん放り込んで、それで出来上がるかというと、そんなものではないと思われる。
今あるものをどういうふうに整理統合し、分かりやすいもの、大事なものにしていくために、学芸員も必要だが、その道に堪能な、例えば、この道具をどうやって使うのか分からない。これは、ちょっとあそこのお年寄りに聞いてみなければならないだろう、という地域の力を借りることも、むしろ大事なことではないだろうか。そういうものを勉強しながら、育っていく学芸員さんも大事ではないか。そして、それが必要になったときに、今あるものを、すぐ壊さなくてもいい。ある程度整えながら、それを少しずつ。「変化」という話があり、「進化」という話もあるだろう。そういうふうな大きなものに育っていく。固定したものをつくってしまうわけではない、という考え方が必要ではないかと思われる。もし、あちこちに分散するのなら、どこがどういうジャンルを担当するのか。
そして、学びに来る、見学に来る人たちに、安曇野の現場を歩いていただく。委員長も、あちこち安曇野を巡り歩いてお気付きになったそうだが、地元の人間も必要だろうが、外から勉強に来られた方にもぜひ眺めてほしい。だから、山岳博物館は要らないので、東山通り、西山通りを整備しながら、ビューポイントみたいなものを案内できるような方があればいいのではないか。もちろんそこへ付いていって、一緒にいろいろなことをご説明できる方が出てくる。あるいは、将来的にボランティアガイドでもできるであろう。
そういうこともできると思うので、早急に建物づくりのことから始める議論はあまり必要ではないと思われる。私どもの構想なので、どんなかたちのものをつくっていこうか、どんなかたちにしようか。先ほど、子どもたちの視点という意見もあり、きちんと整理整頓をして、収集、展示、学習、研究といった整った形のものも要る。また、形は整わなくても、例えば、古文書を解読しなければならなかったり、新しい古文書が出たりしたときには、固定的なものでなくても、研究会などで活動しているお年寄りもいらっしゃるし、そういう方々の力を借りるとか、いわゆる市民を巻き込んで、博物館を構成する要素の大事な部分にしていくということが大事ではないかなと、今、考えている。
あと、建物の整備にお金がかかるのであれば、貯金をするというわけにはいかないと思うが、そういうものをつくる構想を持っているから、行政のほうでもお金を大事に使いながら、時来たり

なばこちら側に回してちょうだいという圧力になれば。これだけのものが整ったから、やってくださいよというふうにしないと、ただ、金だけよこせ、博物館をつくれといっても、これは行政のほうでも困るであろう。

そんなかたちで、もう少しいろいろなことを考えていただいた上で、今日はいろいろなご意見をいただいたとありがたく思っている。

委員・・ちょっと発言しようと思っている間に、なかなか発言できなかったのだが、最初のときに手当てをいただいているのだから、何も発言しないで帰るようなことのないようにというお言葉が頭の中に残っているので、最後にちょっと一言申し上げたい。

事務局の側から、本当に綿密な膨大な資料が提供された。それをこの時間だけで説明されて、皆さんが意見を出す。その意見に対してのみんなのキャッチボールというか、その意見に対して私はこう思うというようなことをやっていかないと深まらない。そういうことを私は懸念する。

なので、次回はこの事務局側の提案について、いろいろな角度からもう少し深めていくことが必要ではないかと思う。

皆さんのご意見の中で一つ私が感じているのは、「安全」である。小谷などでも地震があったり、いろいろあるので、「安全」は一番大事ではないか、ということも考えたいと思う。次回には、そんなようなかたちも採っていただけるとありがたいと思う。

委員長・・今まで出てきたようなかたちで少しやっていきたいと思うが、一方で全員が集まって、時間が限られていているところがある。私はいつも分刻みに動いているもので、時間どおりに切ってしまいたいところがある。もしやるのなら、少し時間を長目に取れる体制を採るなり、もう一方で、今日のような部分に関して、私たちはこの次に、仮の話ではあるが、ケース３になったときに、どうあるべきかと、また論議をしていくべきだと私は思っている。

今の段階では、副会長のほうは、これでいいのではないかと強くおっしゃったようにも思うが、理想論からいったら、本来博物館はみんなで新しいものをつくって、建物から何からしっかりやるのが一番いい。だけど、それはそれとして、次回、ケース１の場合だったらどういうようになっていくのかということを論じて、ある意味ではその折衷案ともいえるケース２の場合だったら、というふうに、みんなで段階を踏んで、その上で本委員会としてはっきり言うと。意見はばらばらだったと思うので、一番多いところに落ち着けるなり、ケース１としてはこれを押します、ケース２としてはこれを押します、というふうに持っていく。

それも、実は時期の問題があり、全体として、私たちがずっとこれをやっているわけにもいかない。議会との関係もあり、事務局のほうとしてはわれわれにいつごろまでに結論を出してほしいのか、伺いたい。そうすると、それによって、会議の進捗状況も、これから何度やります、ということになってくると思うので、最終的には、繰り返すが、私たちのほうでも恐らく意見はばらばらになってくるのが目に見えている。そこのところを含めて言うと、妥協案としなければいけないと思うので、一応いつまでにか、それだけはちょっと事務局のほうから説明いただきたい。

熊井係長・・今、委員長からもおっしゃったように、議会への報告もあり、アンケートも実施する。パブリックコメントもとらなければいけないということもあり、できれば、おおむね８月、９月ぐらいまでに大体のかたちにしたいと思っている。

そのかたちでパブリックコメントにかけて、それでまた意見を盛り込みながら、最終的には年内、または年明け早々ぐらいに確定していきたいと、今のところ考えている。

委員長・・今のような状況なので、できたら８月中ぐらいまでに、われわれの委員会としては、こういうかたちにしたいということを決めていきたい。先ほど話があったように、本日は具体的な論議の１回目として、現状のケース３の場合でどうするか。今日の協議で何が問題であるかということが見えてきたように思われる。これを深めることによって、ケース３の場合と、ケース１の場合はどう違うのかということを認識することによって、次の段階に入っていけると思うので、そのような論理を出していただきたい。

（2）その他

委員長・・ちょっと時間の関係があるので、次に、全般にわたって、何かあればご意見を。

委員・・限られた時間でやっているので、私は先ほどのご意見にすごい賛成である。意見が一方的なので、これだったら、資料を出してもらって、紙に意見を書いて出せば終わりである。こうやって集まっているということは、キャッチボールをしなくてはいけないのに、それが全くできていないから、集まっている意味があまり感じられない。意見をもう少し端的に言う。キャッチボールできる時間をそれぞれが考えながら意見を述べる。そういう場を司会のほうで提供する。誰かが中心になってしゃべっているとか、誰かが時間を取るとか、そういうことはよくない。

委員長・・そのようにこれから心掛けていきたいと思う。ほかに全般にわたって何か。
それでは、これで議事については終わらせていただく。事務局のほうへお返しする。

４．　その他

那須野課長・いろいろな議論をありがとうございました。私のほうで、資料の説明に手間取ってしまった。本日直接配った資料ということで、そうなってしまったが、事前に資料を配付し、次回は議論の時間をきちんと取れるようにしていきたい。
それから、今回、要素ということで、「人」と「もの」に注目して、そのありようをご理解いただくという前提で来たのだが、今日の議論では、やはり博物館、美術館の持つ「収集・保存」、「調査・研究」、「発信・連携」、「育成・創造」という、本来の館の役割に立った意見というのが、非常に多く聞かれた。もうちょっと先でもいいとも思ったのだが、皆さんのご意見を聞きながら、こういうところも少し資料提供をしながら、次回に付け加えていただけるようにしていきたいと思った次第である。
次回の予定だが、事務局の日程等々で、２月 19 日の木曜日、この場所で、向こうの講義室のほうで開催したいと考えている。年度もだいぶ押し迫ってきて、大変皆さんもお忙しいところもあると思うが、できる限りご都合を付けて、ご出席いただけたらと思う。

５．　閉会

北條部長・・どうもありがとうございました。こちらの日程等の都合の中で、次回は２月 19 日、時間は同じ１時半から開始する。建物はここと同じ明科支所内なので、ご予定いただきたい。
以上をもって、第３回安曇野市新市立博物館構想策定委員会を終了する。まだ雪が降り続いているので、ぜひ安全運転で、気を付けてお帰りいただきたいと思う。どうもお疲れさまでございました。ありがとうございました。

以上